

第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

平成29年8月24日（木）

横浜市

国際園芸博覧会招致検討委員会 平成29年度想定スケジュール(案)

第3回 国際園芸博覧会招致検討委員会

※検討項目については、審議状況に応じて変更になります。

	国際園芸博覧会 基本構想 主な検討項目						その他
	① 開催意義	② 基本事項等	③ 事業展開	④ 会場・行催事	⑤ 関連事業	⑥ 効果・事業費	
第1回 6月5日	・開催にあたっての基本的な視点						
第2回 7月10日	・開催意義 ・テーマ整理	・開催場所 ・開催期間	・事業コンセプト	・要件整理 (会場・行催事)			○現地視察
第3回 8月24日	・開催理念 ・テーマ		・気運醸成 ・広報活動	・会場構成 ・行催事構成	・関連基盤整備		
第4回 9月27日	・開催理念 ・テーマ	・想定入場者数 ・面積規模	・理念継承 ・跡地利用	・会場計画 (配置、主要施設) ・行催事計画	・輸送・宿泊計画 ・関連施設計画	・波及効果 ・概算事業費	
第5回 10月予定	・国際園芸博覧会の基本構想素案 として各項目を取りまとめ						○市民等からの 意見募集につ いて
	市民等からの意見を募集						
第6回	・国際園芸博覧会の基本構想横浜市案 として各項目を取りまとめ						○意見募集結果 ○国への招致要 請に向けて

Contents

1 これまでの振り返り

- ・開催意義
- ・テーマ など

2 事業展開

- ・気運醸成・広報活動
- ・出展・展示、行催事

3 会場

- ・会場構成
- ・過去の開催地の状況

4 関連事業

- ・輸送・交通
- ・関連基盤整備

第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

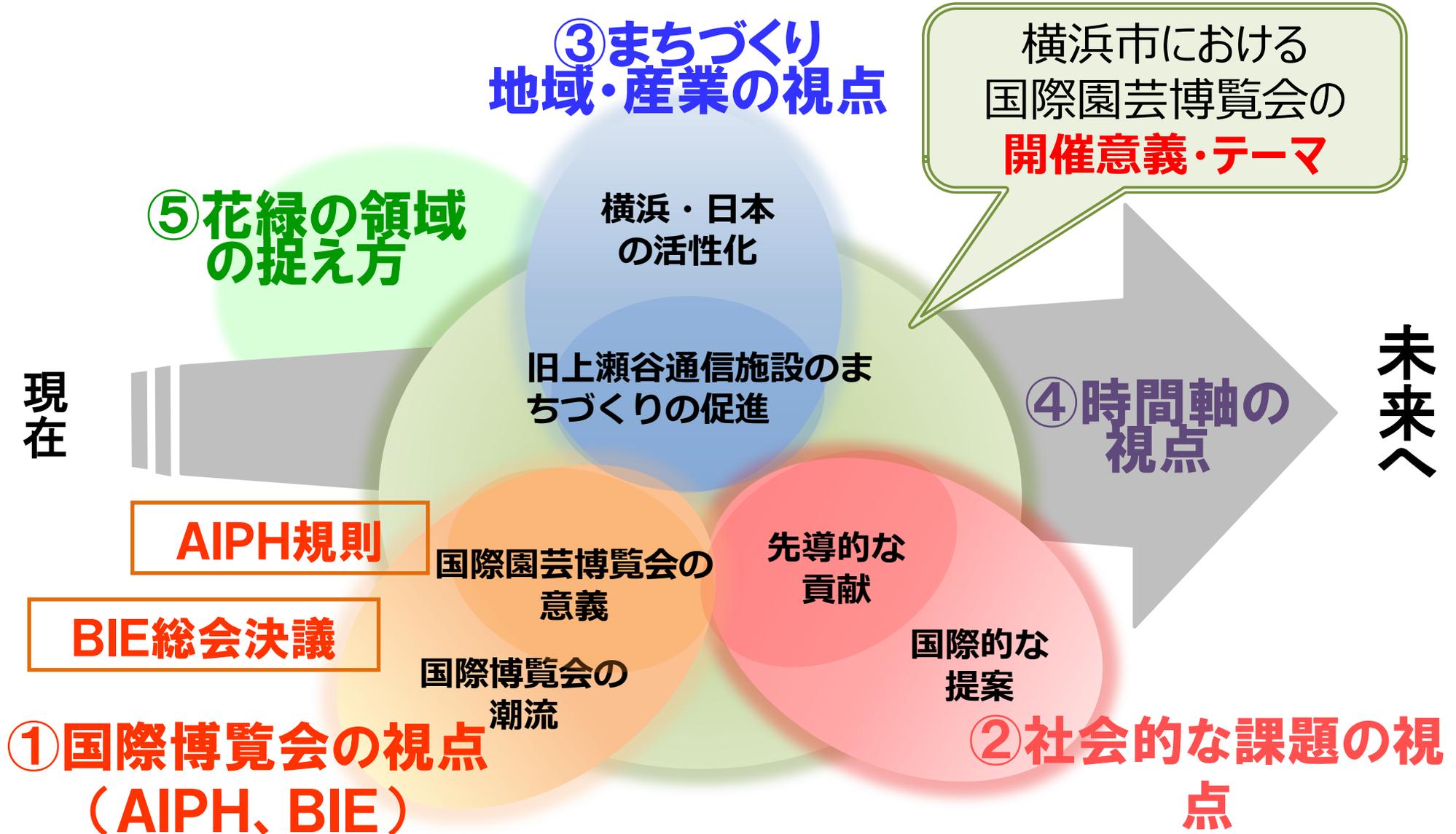
これまでの振り返り

平成29年8月24日（木）

横浜市

1 これまでの振り返り

●開催意義・テーマの検討の流れ



1 これまでの振り返り

●①国際博覧会の視点（+④時間軸の視点 ⑤花緑の領域の捉え方）

国際博覧会の本質

展 示

過去と未来を象徴的にみせる

顕 彰

多様な取組を讃える
(コンテスト等の開催)

交 流

国内外の様々なつながり
(世界各国、市民など)

博覧会の場を通じて
知恵、技術、人を集合させ、
体験、体感を共有する

×

ツール：花・緑の持つ多様な効果

時代の転換点となる
国際園芸博覧会の開催



未来へ
博覧会を通じた提案・まちづくり

1 これまでの振り返り

●②社会的な課題の視点(先導的な貢献、国際的な提案)

背景

開発をめぐる国際的な環境の大きな変化

- ・ MDGsにおける未達成目標（教育、母子保健、衛生）
- ・ 新たな課題の発生（環境汚染の深刻化、気候変動、頻発する自然災害など）
- ・ 開発に関わる主体の多様性（民間企業、NGOなど）

持続可能な開発のための2030アジェンダ

SDGs 持続可能な開発目標（17のゴール、169のターゲット）

- ・ 発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなもの
- ・ 地球上の誰一人として取り残さないこと



開催意義

“グリーンインフラ” “花・緑の多面性” による課題解決

- ・ 自然環境の多様な機能を活用した、持続的な社会、経済、国土の形成
- ・ 新たな自然資本を用い、新たな価値観の形成、シェアリング文化への転換

1 これまでの振り返り

●③まちづくり・地域、産業の視点（日本の活性化）

背景

- ・人口減少、少子化、超高齢化の本格化
- ・IoT、ビッグデータ、人口知能（AI）などによる技術革命（第四次産業革命）
- ・我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札である観光
- ・東日本大震災等を踏まえ、自然と共生する社会の実現
- ・気候変動（集中豪雨や異常気象などの発生）「緩和」から「適応」
- ・「花きの振興に関する法律」の施行（H26.12）花き産業の発展に寄与

日本再興戦略
2016

未来投資戦略
2017

観光立国推進
基本計画

生物多様性
国家戦略

開催意義

成熟社会にふさわしい暮らし

- ・生活の「質」の向上を目指した社会の実現
- ・福祉、教育における花・緑の活用

新たな成長分野となる新産業の創出

- ・情報技術×園芸・造園・農による技術開発や新産業の創出

日本文化の再発信による魅力づくり

- ・江戸期の盛んな花卉園芸
- ・華道、茶道、香道などの伝統的文化
- ・花を「愛でる」生活文化

自然と共生した都市づくり

- ・都市レベルにおける自然の再活用
- ・生態系を基盤とした防災・減災

1 これまでの振り返り

●③まちづくり・地域、産業の視点（横浜の活性化、旧上瀬谷通信施設のまちづくりの促進）

歴史

- ・海外との花文化の窓口となっていた横浜港
- ・都市問題の課題解決に向けたまちづくり（6大事業など）

取組

- ・先進的な緑や環境の取組
- ・「全国都市緑化よこはまフェア」による花と緑あふれる横浜の発信
- ・文化・芸術、観光MICE都市としての取組

契機

- ・首都圏最大規模の接收地である旧上瀬谷通信施設（約242ha）の返還

市民力

- ・373万人の市民力
- ・多くの環境活動団体や市民協働

開催意義

郊外部における新たな活性化拠点の形成

- ・都心臨海部＝海（みなとみらい）、郊外部＝緑（上瀬谷）となることで横浜の魅力を上昇させることで、人や企業に選ばれる都市へ

成熟社会にふさわしいまちづくりやライフスタイルの発信

- ・豊かな市民力や環境未来都市の取組、「全国都市緑化フェア」の成功を踏まえ花と緑あふれるまち、暮らしを国内外へ発信
- ・国際園芸博覧会を契機に、生活の「質」の向上に寄与するまちづくりを展開

1 開催意義

● テーマから考える事業コンセプトの方向性

花、緑、農・食、交流・シェアを主なコンテンツとし、
普遍性と先進性の視点から事業を構成

交流
体験・滞在

歴史

リアル
本物
普遍性

×

バーチャル
技術

先進性

エデュテイ
メント

ハイブリッド
育種

コンテンツ

花

緑

農・食

交流・シェア



1 これまでの振り返り

● 事業コンセプトと展開例

● 最新技術と本物志向

- ・ 圧倒的な本物感(非日常スケールの花畑)
- ・ 動植物の実物展示(ふれあい・交感)
- ・ R(リアル)とVR(バーチャルリアリティ)のハイブリット
(例:実物のラフレシア+熱帯雨林VR借景)
- ・ 本物花緑体験、地域との交流(育成工程の地元協力、部分的リアル体験、交流イベント展開)

● 多様な文化の交流

- ・ 江戸園芸世界の復元(実物とアカイブ)
- ・ 横浜野菜収穫体験・地産地消レストラン(地元協力による育成と体験交流イベントの内外への波及、閉会後の持続と産業育成)
- ・ 最新園芸科学技術との共作(横浜産の花を育てるプログラム、博覧会での新種開発とアピール)
- ・ 世界の園芸文化とのコラボレーション(花緑に関わる音楽・美術・舞踊・映像他のアーティストと内外の園芸家・造園家・華道家とのコラボ作品の展示、実演、市民参加型ワークショップ)

● 新たなライフスタイル提案

- ・ 集団から個への価値観の転換。(地球環境課題や持続可能社会構築への個人意識を啓発する展示、イベントや関連事業展開)
- ・ 気づきによる行動への導き。(例:「Ido!(私がやる)」を基本メッセージにしたリフト展開)
- ・ モノ、空間、体験をシェア(展示空間、体験交流空間のシェアリング実験、共生や負荷低減を試行体験するリフトプログラムの提言)

● 市民力の発揮と継承

- ・ 横浜市民力発揮の最大化(環境意識・ボランティア精神の高さ、市民参加実績の蓄積)
- ・ 豊富な市内NPOネットワークの活用(人材バンク的連携、市外・世界への広がり)
- ・ 民間企業のCSR(資金、人材、ナレッジ)との連携・協力。

● 先進性・普遍性

- ・ 環境未来都市の環境共生技術のCity7°イノベーション。(緑アップ、エリキナー施策、水施策のプレゼン)
- ・ 新たな先導的な園芸博覧会、計画・整備手法の提示。(例:7°イノベーションも見せる展示型、博覧会後の産業育成に繋がるR&D型、公園プログラムの新社会実験、低環境負荷の建築新素材・新技術)

● 自然・平和への敬意

- ・ 自然・生きもの・いのちへの敬意を基盤に置き、土地の履歴を踏まえた平和に関するメッセージを重視。(例:縄文杉の様な植物の神秘や尊厳をプレゼンする展示と学びのリフト。平和と命のリフト外をテーマにしたアートと音楽のイベント、世界にも発信)

第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

2 事業展開

平成29年8月24日（木）

横浜市

2 事業展開

● 事業展開の考え方

最新技術と
本物志向

多様な文化の
交流

先進性
普遍性

市民力の
発揮と継承

自然・平和
への敬意

新たな
ライフスタイル提案

- ハード事業（出展・展示）とソフト事業（行催事）による展開
- 花緑・園芸の魅力・価値・可能性を普及啓発することで、花緑・園芸の持つ領域の拡大の定着化を図る
- 実証実験を通じて、国内外の社会課題・環境課題を解決に導く糸口へとつなげる
- 新しいライフスタイルや新しい生活の価値・豊かさの拠り所を自然や生きもの世界に希求する
- 参加・協働の仕掛けを行うことで、交流・シェアを誘導・促進する
- 芸術性、娯楽性、学術性を通じ、花緑・園芸の新しい見方や活用方法を提案する

アミューズメント
amusement
娯楽性

アーティスティック
artistic
芸術性

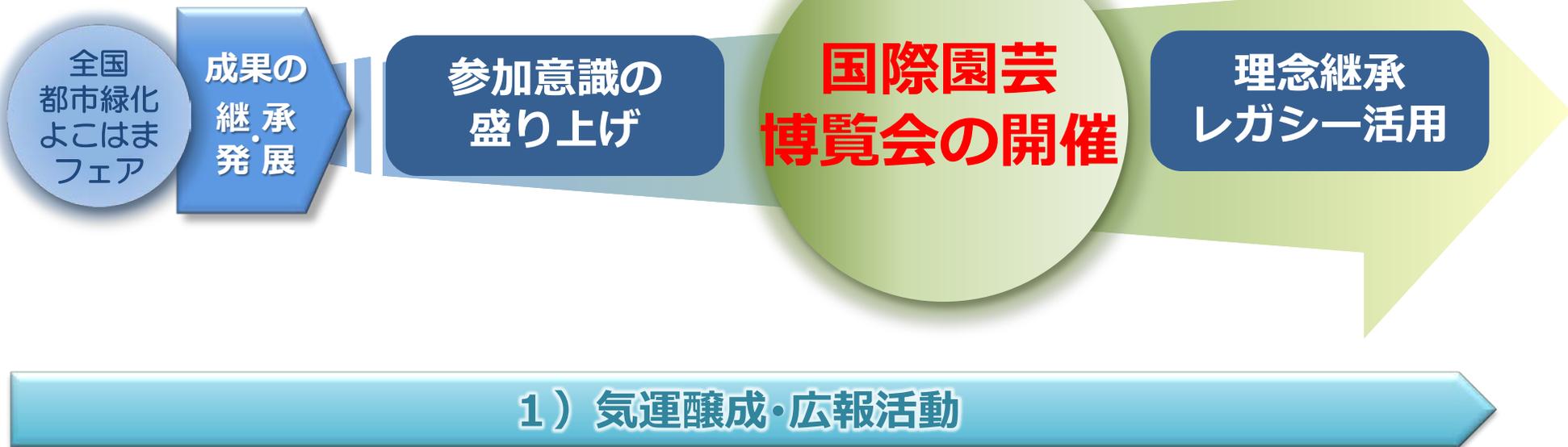
アカデミック
academic
学術性

2 事業展開

● 事業展開の考え方

花と緑あふれる横浜に向けて、全国都市緑化よこはまフェアをプロローグ、国際園芸博覧会の開催をマイルストーンとして位置付け、意識の啓発、高揚へと高めていく

2) 出展・展示、行催事



2 事業展開

1) 気運醸成・広報活動（過去事例の特徴的対応）

大阪花博

- 三本柱で推進 ①広報活動の展開 ②市民運動の推進 ③学校・社会教育における啓発
 - 年度毎重点方針(S62年:花博の周知 S63年:参加意識の醸成 H元年:参加意識の高揚 H2年:観客動員の促進) を定め推進
 - 学校関係、教育委員会等への表敬活動、学校行事用しおり、指導の手引き、子供用リーフレット、等の小中学校への対応を強化
- * カウントダウン行事、PRグッズ(花の種、ノート等) 記念煙草、記念宝くじ、PR飛行船等が注目

愛・地球博

- 市民自らが企画から制作、運営までの一切を担う市民参加プロジェクトの実施
 - 本格的ボランティア育成による“プライト”の醸成と人的ネットワークへの波及効果
 - 学校教育との連携強化：県内全小中養護学校364校約16万人が参加
 - 学校給食での参加国の特別メニュー実施
- * 東京、大阪、名古屋を中心にキャンペーン展開、市町村・地方へのPRキャラバン、マスコットキャラクター、パレード等が注目

ポイント

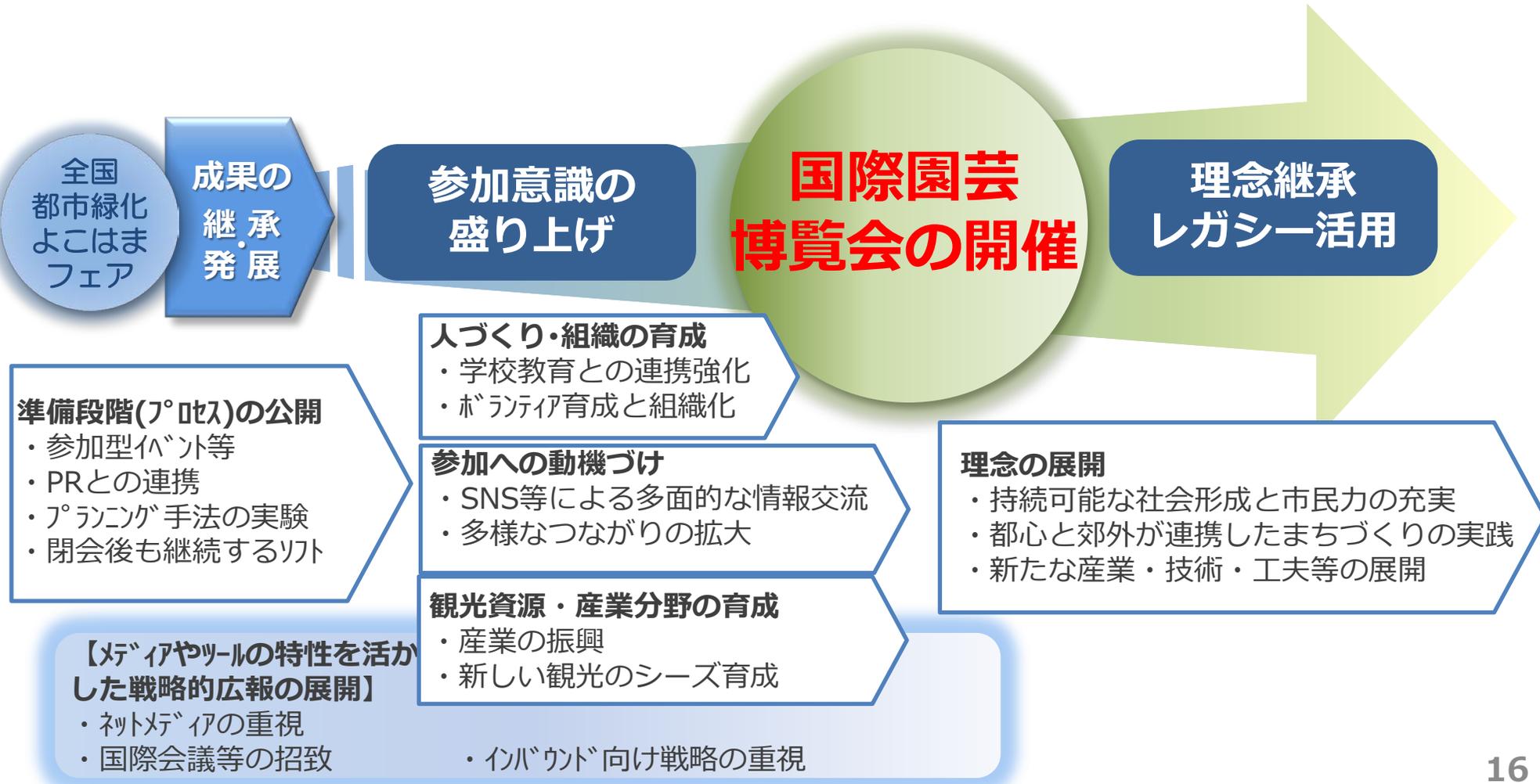
- ・ 草の根レベルの市民の気運醸成と広報活動の一体的な計画が奏功
- ・ 各種PR媒体やメディアの網羅的活用が重要

ポイント

- ・ 多彩な市民参加形態
- ・ 長期・持続的、専門的なボランティア育成と連携した啓発・意識醸成が奏功
- ・ 学校教育との積極的連携、全県的啓発強化

2 事業展開

1) 機運醸成・広報活動



2 事業展開

2) ①出展・展示－構成（案）

ア：国際園芸博覧会において共通して展開されているもの

項目	ストーリー	コンテンツ・ツール
出展 展示	屋内で世界各国の美しい花、珍しい花や樹木を展示し、花の飾り方による楽しさ・面白さなど多面的な素晴らしさを体感	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各国の花緑 ・花と緑のコンテスト ・各国の花緑、特産品の展示
	各国の文化伝統にもとづく造園・園芸技術の実物を紹介	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各国の庭園 ・国際庭園
	各団体による様々な手法や工夫を凝らした造園・園芸技術の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体、企業出展 ・刈ヅルの庭園、花壇、植物の展示
	植物の素晴らしさや生命の偉大さを実感	<ul style="list-style-type: none"> ● 集客コンテンツ ・目玉展示物（例：ラフレシア、屋久杉の風倒木）
	日本の風土・文化を体感	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の園芸文化 ・日本庭園 ・盆栽、生け花など花緑にまつわる日本文化
	園芸産業の振興、栽培技術の発展	<ul style="list-style-type: none"> ● 花卉園芸 ・多種、多品目の生産物 ・品種改良、新品種
	新しい花のライフスタイル・ライフを実感	<ul style="list-style-type: none"> ● 花と産業 ● 花と生活 ・バイオテクノロジー-園芸、森林産業 ・花のある暮らし、ガーデニング

AIPH規則より
 ・博覧会会場の少なくとも5%を正式な海外からの参加者のために確保
 ・コンペティションの開催

2 事業展開

2) ①出展・展示 - 構成 (案)

イ：横浜における博覧会での特色

項目	ストーリー	コンテンツ・ツール
出展 展示	世界各国の農・食を通じて、農の楽しさ、食のおいしさを体感する	<ul style="list-style-type: none"> ●農と食 ・世界のICT農業、最先端施設園芸 ・収穫体験 ・各国の「食」・地産地消レストラン・デジタルフラワー
	本物を感じることで、花緑の素晴らしさを再確認する	<ul style="list-style-type: none"> ●目玉展示物 ・非日常レベルの圧倒的な花世界（大花壇など） ・世界の珍奇植物の実物展示
	花緑を媒体に、多様な文化や人との交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●アートと花緑 ・花緑をテーマに音楽・美術・舞踊・映像等のアーティストと園芸家・造園家・華道家とのコラボの展示、実演 ・市民参加型制作ワークショップ
	最新技術により、本物・実物の新たな魅力を引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ●先端情報科学と花緑・農 ・リアルとバーチャルのハイブリッド体験 ・CG、VR、プロジェクションマッピング等といった最先端技術
	自然の持つ多様性を活かした持続可能な都市づくりを提案する	<ul style="list-style-type: none"> ●環境共生型の都市づくり ・グリーンインフラ、都市緑化など環境共生技術の展示
	花緑園芸を生活・暮らしの中のものにする	<ul style="list-style-type: none"> ●医療福祉、教育と花緑 ・生物由来の最先端医療技術・園芸セラピー、花緑薬効体験 ・体験型環境学習プログラム（花育、食育）
	自然・生きもの・いのちへの敬意の気付き	<ul style="list-style-type: none"> ●平和と花緑 ・メッセージフラワー展示。販売 ・アート・音楽イベント（ピースをキーワード）

2 事業展開

2) ②行催事 - 構成 (案)

ア：国際園芸博覧会において共通して展開されているもの

行催事	<ul style="list-style-type: none"> ・開閉会式 ・庭園コンテスト・表彰式 	※AIPH規則
	<ul style="list-style-type: none"> ・出展国の日などのスペシャルデー ・国際交流催事 ・集客アミューズメント催事 	

イ：横浜における博覧会での特色

行催事	主催者企画	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者や国・自治体との共催による基本理念・テーマに訴求した主要催事 ・ガーデンツーリズム啓発の体験型催事
	参加型	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、NPO、企業などによるイベント展開
	交流発信	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国等との技術・文化の共有、発信
	学術行事	<ul style="list-style-type: none"> ・真の田園都市、農・食をテーマとした 国際会議、シンポジウム、フォーラム ・農・園芸先端技術交流、異文化交流

第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

3 会場

平成29年8月24日（木）

横浜市

3 会場

● 会場構成の考え方

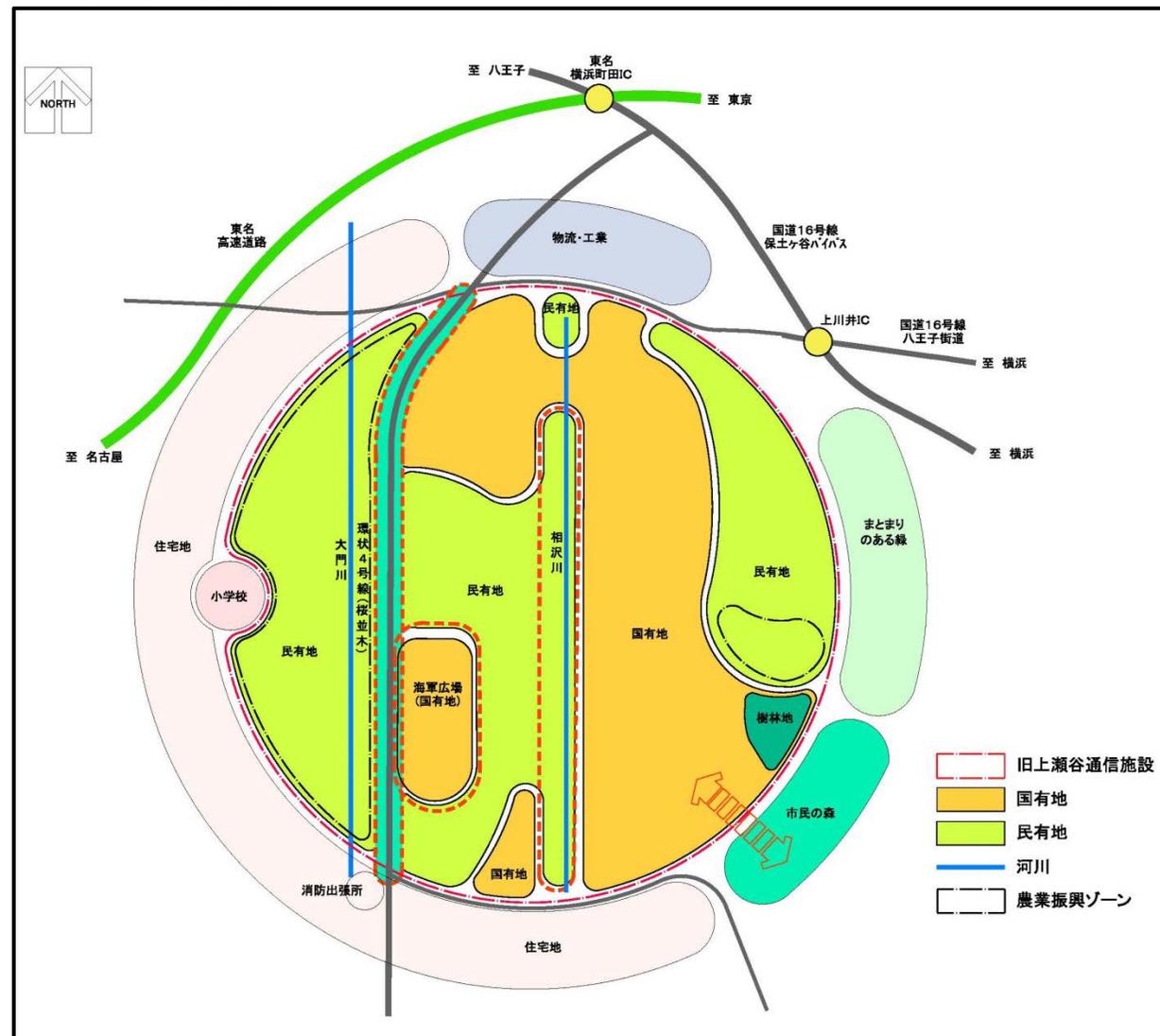
会場計画の考え方

- ・ 横浜が取り組んできた港北ニュータウンのグリーンマトリクス等を活かした新たな都市と環境のバランスを図った会場計画とする
- ・ 上瀬谷の持つ広がりなどを実体験してもらうため、屋外の空間演出を重視した会場構成とする

会場配置の考え方

- ・ 国有地を中心に配置
- ・ 相沢川の保全と利用
- ・ 市民の森などのまとまりのある緑や「農業振興ゾーン」との連担性
- ・ 周辺の住宅地等への配慮
- ・ 道路との接道性の考慮

■ 現況概念図



※図は、現況を模式的に示したものであり、あくまでイメージになります。

3 会場

●ゾーニング(機能構成)、動線、主要施設の考え方

【主要施設】

【ゾーニング(機能構成)】

展示ゾーン：①公式出展、②企画展示 の2つの展示ゾーンに分けて構成

修景ゾーン：鑑賞の為の移動・逍遙空間、借景空間

催事ゾーン：セミナー、賑わい、交流、集客空間

エントランスゾーン：会場の顔、入口滞留空間、集散機能

管理、飲食物販ゾーン：ゲートを中心にサービス、飲食物販機能

樹林ゾーン：周辺のまとまりのある緑などとの連担性

水景ゾーン：水辺を活用した修景・親水空間

- 無料区域と有料区域の2区域化を検討

【動線】

- メインとサブゲートを配置し交通アクセスを分散
- 無料と有料の2区域を接続
- 2つの展示ゾーン、催事ゾーン(屋外ステージを中心に展開)、エントランス広場、修景ゾーンを結ぶ回遊動線を設定
- 移動・滞留においても景観や空間演出を楽しめる動線演出

ゾーン	区分	施設
展示	公式出展	・日本政府の出展庭園 「テーマ庭園」
		・出展展示「※諸外国参加・コンテスト」 「文化・庭園展示等」
		・屋内出展施設：公式出展の拠点 「展示ガイド・屋内向け植物展示」
	企画展示	・主催者展示(国、県、市) 「テーマ庭園、地域表現」 「各種園芸等に関する革新技術展示」
		・出展展示 「市民・NPO・企業出展」
		・屋内展示施設：企画展示の拠点 「展示イノベーション・サービス、屋外の解説展示」
修景	修景花壇	・園路 「快適で安全、移動による景色の変化を鑑賞」
		・広場
		・樹林地
・水景「親水・景観形成、兼調整池」		
催事	催事体験	・ステージ施設
		・体験催事施設
		・アミューズメント施設
管理 飲食・ 物販	インフォメーション	・ゲート・案内所 「多言語、手話対応」
	サービス提供	・サービス施設 「券売所、救護・保育施設、休憩施設、自転車・ 車椅子貸出、落物・迷子センター、花・緑相談所」 ・トイレ「障害者対応」 ・営業施設「営業店舗、飲食店舗」

*：AIPH規則より

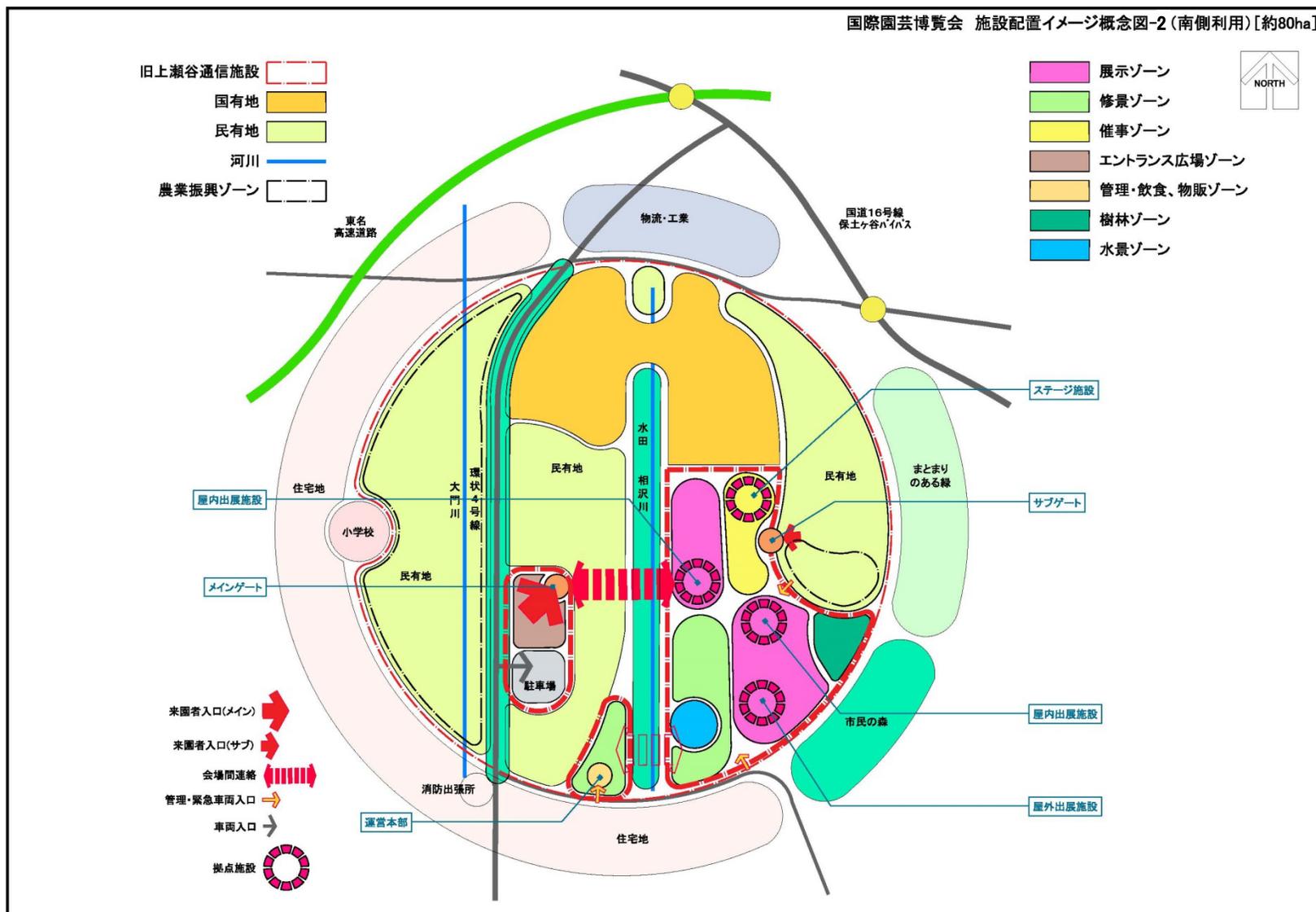
3 会場

●会場構成案比較

	会場構成の考え方	メリット:◎、デメリット:●	面積	面積	過去の園芸博の規模
案①	<ul style="list-style-type: none"> ・国有地全体を活用し、市民の森等の周辺の魅力や資源を連携・活用するプラン。 ・アクセスを重視し、メインゲートは北側に設置。 ・海軍広場はサブ的な会場とし、賑わい空間として最大活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ゆとりのある空間展示が可能 ◎メインとなる会場へのアクセスが容易 ●広域のため、動線が長くなる ●駐車場の一部を会場外へ配置 	約100ha		大阪花博 全体面積：161ha ↳会場面積：105ha (約65%) ↳駐車場：52ha (約32%) ↳ヤード：4ha (約3%)
案②	<ul style="list-style-type: none"> ・空間構成をコア外にし比較的短い動線で会場演出を図るプラン。 ・まとまりのある緑との連担性を確保するため、南側に配置。 ・よって、海軍広場をメインゲートとすることが必須となり、賑わい空間は、他に持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎北側の国有地を駐車場として利用可能 ●海軍広場をエントランス広場として利用するため、会場との連絡通路の確保が必要 	約80ha		淡路博 全体面積：96ha ↳会場面積：77.6ha (約81%) ↳駐車場：16ha (約17%) ↳ヤード：2.4ha (約3%)
					静岡博 全体面積：58.7ha ↳会場面積：40ha (約68%) ↳駐車場：16ha (約27%) ↳ヤード：2.7ha (約5%)

3 会場

●会場構成案-②(約80ha)



※図は、会場案を模式的に示したものであり、あくまでイメージになります。

3 会場

●過去の開催地の状況(会場跡地)

	会場跡地	概要
大阪花博	都市公園 「花博記念公園鶴見緑地」	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見緑地整備計画と整合させて開催し、博覧会后、都市公園として再整備し活用 ・咲くやこの花館(温室)、国際展示館、国際陳列館、迎賓館等を存置 (大半のパビリオン、会場内交通施設は撤去) ・スポーツ施設、公園施設を再整備 <p>【公園の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域公園 ・防災公園(広域避難場所に指定)

3 会場

凡例

- 博覧会会場区域
- 存置施設



--- 園内バスコース (無料・月曜日運休(改日の場合休翌日))
 コース1周約30分で運行(定員13名)
 10:00~16:30まで約30分間隔で運行
 ※高齢者の方、体の不自由な方に優先してご乗車いただいております。

..... 山のエリア
 開園時間 4~10月...9:00~17:30/11~3月...9:00~16:30

..... ワーキング・ジョギングコース
 (1周の距離は約2,250mです)
 スタート地点から200m毎に距離ポストを設置しています。

お手洗い	トイレ	トイレットペーパーがあるお手洗い	公共電話	レストラン	器具
貸出道具	休憩所	売店	郵便局	観光売店	観光売店
警備室(女子・男子・事務)	駅	バス乗り場	自転車置き場	自転車置き場	自転車置き場
観覧用目録	AED	駐車場	バス停	バス停	バス停

鶴見緑地パークセンター(営業時間 9:00~17:30/休日 年末年始) 電話 06-6911-8787
 鶴見緑地ではごみ減量のため、ごみ箱を設置していません。「ごみ持ち帰り」にご協力をお願いします!

【出展：花博記念公園鶴見緑地公園マップ】

3 会場

●過去の開催地の状況(会場跡地)

	会場跡地	概要
淡路花博	都市公園 「淡路島国営明石海峡公園 県立「淡路夢舞台」 県立「奇跡の星の植物館」	<ul style="list-style-type: none"> ● 国営明石海峡公園・複合文化リゾート施設「淡路夢舞台」の整備と整合させて開催し、博覧会後国営公園と県立施設として再整備して活用 ・ 県立施設「淡路夢舞台」として奇跡の星の植物園(温室)、国際会議場、野外劇場を存置 <p>【公園の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国営公園

●跡地利用(過去の事例からの整理)



【出展：淡路島国営明石海峡公園園内マップ】

3 会場

●過去の開催地の状況(会場跡地)

	会場跡地	概要
<p style="text-align: center;">浜名湖 花博</p>	<p style="text-align: center;">都市公園 「浜名湖ガーデンパーク」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●浜名湖畔の埋め立て造成農地を花博計画に併せて県営都市公園として整備し、博覧会后県立公園として再整備して活用 ・シンボル施設として展望塔、屋外ステージを存置 ・花木園、百華園、国際庭園、各種花壇を存置 <p>【公園の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域公園

● 跡地利用(過去の事例からの整理)

凡例

- 博覧会会場区域
- 存置施設

浜名湖ガーデンパーク全園図



【出展：浜名湖ガーデンパーク園内マップ】

マールバス 駐車場 二輪車駐車場 トイレ 男子トイレ 女子トイレ オストメイト対応トイレ 休憩所 車椅子専用トイレ 喫煙所 自動販売機 駐輪場 飲食施設 ※公園内での飲食は可です。 ※自転車の走行はサイクリングロードに限られます。

3 会場

●過去の開催地の状況(会場跡地)

	会場跡地	概要
愛・地球博	都市公園 「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」	<ul style="list-style-type: none"> ●県営「愛知青少年公園」を活用・再整備の上で国際博を開催し、博覧会後に都市公園として再整備して活用 ・シンボルとして大観覧車を存置 ・日本庭園、サツキとメイの家、展望塔などを存置、 ・存置施設を、地球市民交流センター、愛知県児童総合センター、プール・スケートリンク等に再整備 ・運動施設、レジャー施設を再整備し配置 <p>【公園の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域公園

3 会場

● 跡地利用(過去の事例からの整理)



第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

4 関連事業

平成29年8月24日（木）

横浜市

4 関連事業

●輸送・交通(過去の事例)

大阪花博・愛知万博の事例整理

●来場者の交通分担率

区分	来場者数 上段:計画 下段:実態	来場者の交通分担(実態)					
		軌道系	路線バス	シャトルバス	貸切バス	自家用車	その他 (徒歩、タクシー)
大阪花博 1990年	2,000万人 2,313万人	34.5%※1	3.3%	11.0%	17.7%	20.2%	13.3%
愛知万博 2005年	1,500万人 2,205万人	37.8%※2	2.1%	8.9%	15.0%	20.1%	16.1%

※1 . . . 長堀鶴見緑地線：鉄道輪式リニアモーターミニ地下鉄

※2 . . . 東部丘陵線・リニモ（磁気浮上式）リニアモーターカー

4 関連事業

●輸送・交通

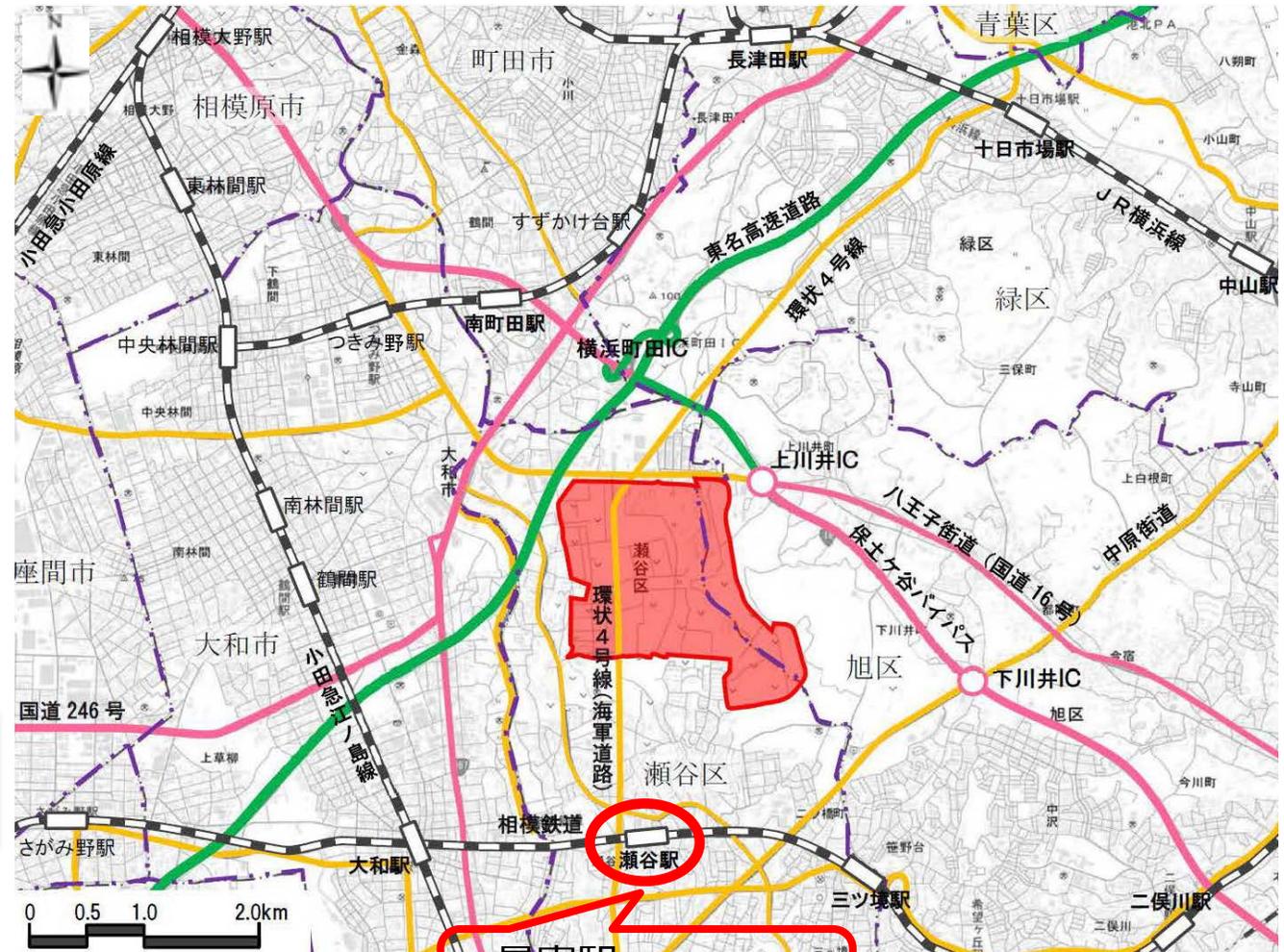
道路基盤、公共交通基盤の現況整理

●鉄道の状況

- ・ JR横浜線
十日市場駅、長津田駅
- ・ 東急田園都市線
南町田駅
- ・ 相模鉄道本線
瀬谷駅、大和駅、三ツ境駅
- ・ 小田急江ノ島線
鶴間駅 など



最寄駅からも
約2kmの距離



最寄駅
瀬谷駅 (約2km)

4 関連事業

●輸送・交通

道路基盤、公共交通基盤の現況整理

●道路の状況

【旧上瀬谷通信施設周辺】

- ・八王子街道
- ・保土ヶ谷バイパス上川井IC
- ・東名高速道路横浜町田ICに近接

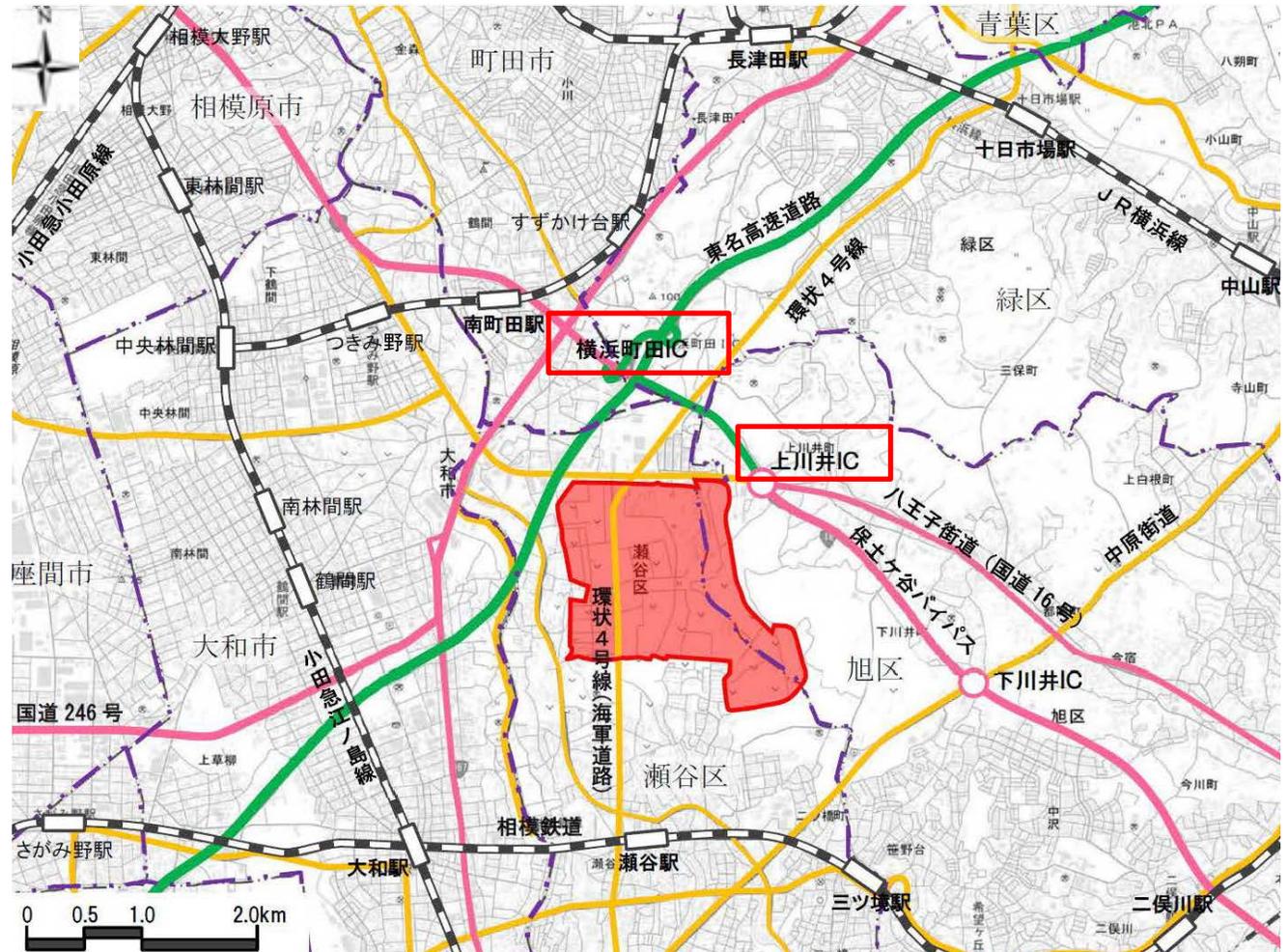
【旧上瀬谷通信施設内】

- ・環状4号線が南北に貫く

- ・八王子街道
- ・保土ヶ谷バイパスなど、
周辺の幹線道路で混雑



- ・横浜環状北西線の整備
(東京2020リビ°ック・パ°リン
ビ°ックまでの開通を目標)
による混雑緩和(見込み)



4 関連事業

●輸送・交通

道路基盤、公共交通基盤の現況整理



凡 例	
	横浜環状道路(事業中)
	K7 横浜北線(供用済)
	横浜環状道路(計画中)
	自動車専用道路
	自動車専用道路(事業中)
	自動車専用道路(計画中)
	一般国道

4 関連事業

●輸送・交通

旧上瀬谷通信施設における交通・道路の課題

博覧会開催時に増加する交通需要を考慮すると、

- ・公共交通アクセスが脆弱
- ・周辺道路の混雑が予想される



国際園芸博覧会時の輸送計画の方向性

将来の土地利用計画との整合性を図りながら、

- ◎ 周辺駅や市内外の主要駅利用の来場者をスムーズに会場に導く輸送手段を検討
- ◎ マイカー抑制策や道路交通によるアクセスの改善策等

4 関連事業

● 関連基盤整備

必要とされる主なインフラ

- 給排水施設
 - ・ 上水道
 - ・ 下水道
- エネルギー関連
 - ・ 電気
 - ・ ガス
- 情報通信

※長年米軍施設であったことから、施設内のインフラは未整備

旧上瀬谷通信施設におけるインフラの課題

- ・ 博覧会開催時における一時的な需要増加が見込まれる



国際園芸博覧会時の関連基盤整備の方向性

- ◎ 将来の土地利用計画と整合を図りながら、**恒久的な需要を想定した周辺の幹線との接続**を検討する。
- ◎ 博覧会時の一時的な増加分は**仮設を含めた効率的な施設計画**を検討する
 - ※ 仮設の場合、**環境に配慮した計画**を検討する

4 関連事業

●環境配慮への取組

国際園芸博覧会時の廃棄物処理の方向性

◎環境に配慮した廃棄物処理を検討する

●環境への配慮の例

- ・発生する廃棄物の抑制、資源として活用し、ゴミの発生ゼロを目指す
- ・パビリオンなどの仮設建築物のリサイクル など

●参考_過去事例の整理

●ごみ減量（横浜G30プラン）

【主な取組】

- 3 R 運動の推進
- 事業系古紙の分別排出の徹底
- 建設木くずの資源化促進
- 食品関連事業者に対する食品リサイクルの推進
- 容器包装類の店頭回収促進
- 缶・びん・ペットボトルのリサイクル推進

⇒ごみ減量30%を5年前倒しして達成、2つの焼却工場を廃止

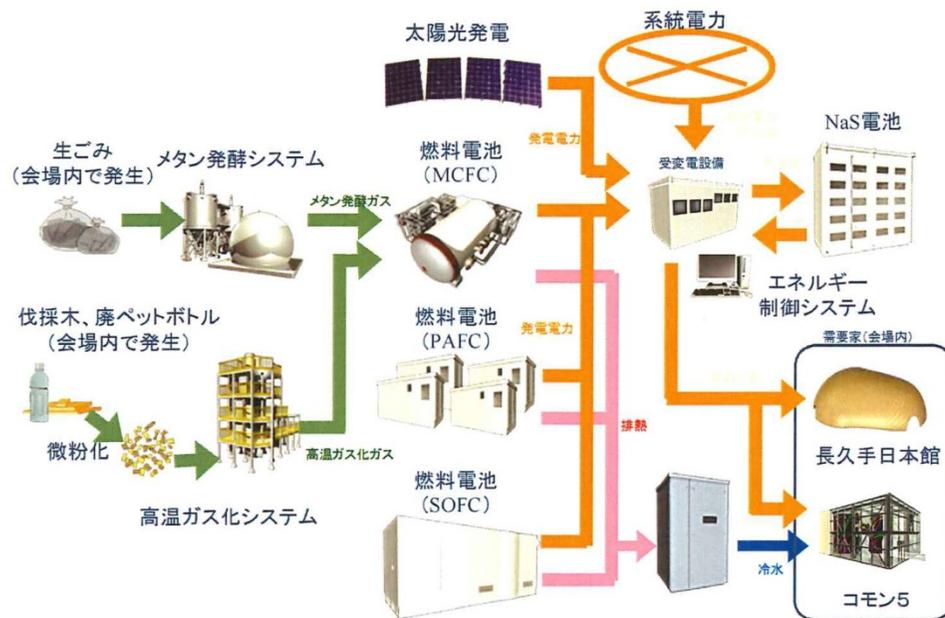
4 関連事業

●環境配慮への取組

●参考_過去事例の整理

●愛知万博

地球環境問題に対応して、会場整備と会場運営の全ての分野で、3Rシステム（リデュース、リユース、リサイクル）の徹底やゼロエミッションを目指した取組みを実践する外、21世紀に求められる新しいエネルギーシステムやCO2削減などの最先端の環境技術の導入に挑戦し、環境負荷の低い循環型社会のモデルを提示した。



出典：愛知万博における会場内ゼロエミッションへの取り組み